

身分制の話 前篇

(真理の友叢書 第1輯)

国立国会図書館

特501

847



\*0038976000\*

0038976-000

特501-847

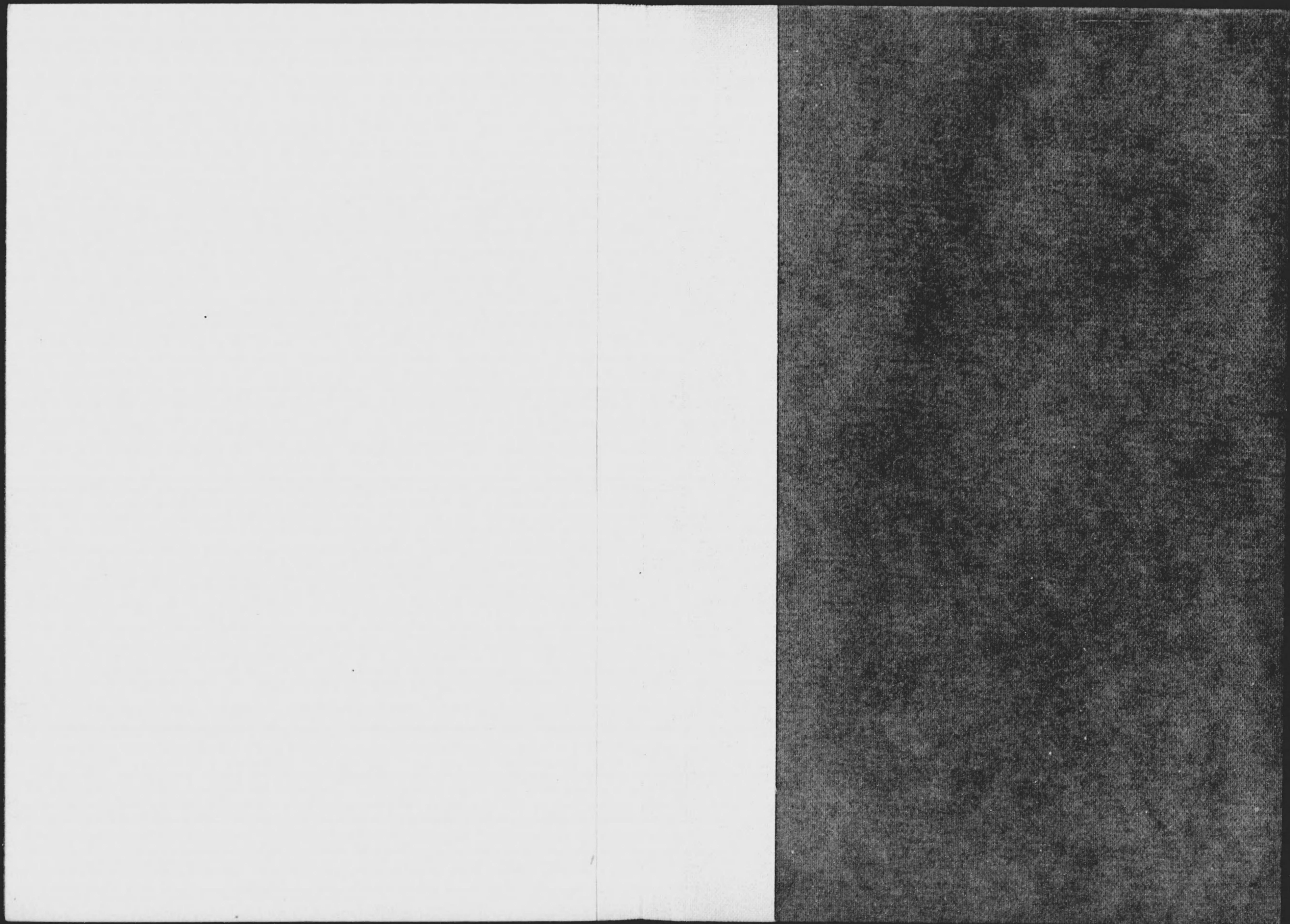
身分制の話

真理の友社

[昭8]

AGH







(十)

6905



V. 1

昭八.三.二三日禁止之





眞理の友叢書 第一輯

身分制の話 前篇

眞理の友社發行

定価二銭



80W20135

特501  
847

身分制の話 前篇

目次

- 一 差別問題はなくなら  
ない
- 二 「百た」といふ言葉の起  
り
- 三 奴隸制度
- 四 封建制度
- 五 身分制といふこと
- 六 明治維新

一 差別問題はなくな  
らない

この間、アノ縣々郡々村々に参りま  
した。此頃、馬鹿に差別問題が多  
くなつたのですが、どういふわけだ  
うと、こつといふ質問を受けま  
した。そこで色々とその村の様子  
を尋ねた。処が、オ一にその村が可成  
疲弊して、おて土地の少ない、貧乏  
な村だといふことがわかりました。  
そして、今までは、メ郡の横断村だ



とまで云はれておたその村に約七割の縣帶納者があるのを知ることが出承しました。

皆さん、この事實から私達はどう云ふことを考へさせられたでせうか。貧乏な村程差別待遇が多い、このことです。これは他リ××縣だけでなく△△の等最近特に差別問題が起つてゐる処をしらべると皆さうなものです。特に目立つことは二三年前まで水平運動などの發展によつて可

といふことになつてゐるのです。東京などでもこの頃中位の商店が不景氣の爲盛んに店員を首切るやうですが水平社の兄弟の場合特にそれが甚だしいのです。不景氣でなくとも水平社だといふことがわかれば東京あたりではどしく首にするのですがこの頃になると手当も何もなして追ひ出されるといふことを聞きました。

追ひ出されるもせず仕事についておられるのは女地位なもので

成り下つたになつておた差別問題が昨今になつて特に多くなつて来たこととです。これはまた貧乏が差別問題を引き起さるといふ事實を示すものではなうでせうか。いふのは所謂不景氣が年毎に募つてきて昨年などはどこの地方でも税金帶納者が急に増えてきたのです。そして今年に更にその傾きが強くなつてきたのです。即ち差別問題は貧乏な地方程又不景氣が非道くなるればなる程烈しい

す。こうして差別待遇は少しもなかつたといふのです。何故、こうなつたのでせう。私達はこの問題をほんやり見過してはなりません。また自分で当面しないというよりは自分に関係のないことと考へ過してしまふべきではないのです。何故ならばこの問題は誰でも必ず現在関わりを持つてゐることだからです。

そこでオ一に考へられることは最近特に不景氣が非道く農民や労働



労働者の日常の生活が苦しくなり  
 毎日不平の絶間がないといふことで  
 す。そしてそこから差別問題が起  
 づて来るのです。何故このことが差  
 別問題を起すかといふと誰し  
 も胸に一物ある時は必ずその鬱憤  
 を晴らし度いと思ふものです。そ  
 して不景気のために色々不平を  
 持つてゐる労働者や農民も必ずそ  
 の不平のハケ口を求めてゐるので  
 或る者は酒を含むとか或者は地主  
 に小作料を貸せさせるとか、そして

その不平が何処かでバク口されるの  
 です。此の最も悲しい表れが水平社  
 に對する差別となり朝鮮人を馬  
 鹿にする事になるのだと思ひま  
 す。即ち日常生活の不平を水平社  
 を差別することによつて晴らす  
 とするのです。これは決して笑ひご  
 とではありません。不平の持つて行  
 き場所を知らない労働者や農民  
 はきつとあられもない力の弱い者  
 を苛めたり差別問題を起すので  
 す。従つて今日の差別問題は同じ

ではありませんか。

### ニふといふ言葉の起り

話の都合上世間一般で差別的な  
 言葉とされてゐる「ふ」といふ言  
 葉の起りを詮議して見たいと思  
 ひます。この「ふ」といふ文字は  
 決して昔間に言はれてゐるやうな  
 穢多といふ文字で表はされるも  
 のではありません。これは「ふ」とい

ゆるく農民や労働者の間に多いと  
 いふことをはつきりと見たゞれば  
 大なりません。  
 扱以上で最近特に差別問題の  
 多くなつた原因はわかりました。  
 併しまだ差別問題は何故起るか  
 といふことは説明して居りません。  
 差別事件の多い少ないは経済  
 上の余力のあるときでない時によ  
 つて違ふものだといふことはわ  
 かつたが次に差別問題は何故起  
 るかといふことを考へて見よう



といふ言葉がなまってる今日の  
 「ゑんた」となつたのであつたからす  
 つと昔は「ゑんとり」と云つたもので  
 した。「ゑんとり」とは何か。この「ゑ  
 とり」の「ゑん」といふのはよく胃の  
 薬になると云はれる「熊の膽」の「ゑ  
 を指したものです。即ち「ゑん」と  
 ることを生業としてゑんた人達の  
 ことを「ゑんとり」と云つたものな  
 のです。そして「ゑんとり」と云  
 はれた人々は多くはへんひな土  
 地、山間に住むとか、或は武士のお供

として連れられ合戦のあつた場  
 合の死傷の片附等をしてりして  
 おたものです。然も昔間ではこの  
 獸類を取扱ふことを嫌ふといふ  
 併教の思想によつて「ゑんとり」を生  
 業とする人達をいつしか軽蔑し  
 そういふ一團の人々を「ゑんた」とい  
 ふ名稱によつて差別するやうにな  
 りました。そしてそれれは徳川  
 時代になると立派な「ゑんた」とい  
 ふ一つの階級として運命づけられ  
 たものです。「ゑんた」といふ身分が

生れだりほ、此からでした。「ゑんた」と  
 いふ身分が決まると封建制度は  
 残酷なるもので「ゑんた」と稱する人達  
 が或は農業をするやうになつてもや  
 はりいつまでも「ゑんた」としての差別  
 を取除けることをなかつたのです。  
 そして今日でも尚この「ゑんた」の差別  
 はやまないのです。  
 私達は「此からゑんた」の前身だ  
 つた「ゑんとり」とは一体どういふ人達  
 か。今日「ゑんた」と差別してゐる所  
 謂一般の人達は「ゑんた」とどういふ

違ひがあるのか。また「ゑんた」を最も  
 悲惨な状態に押し込めた封建制度  
 とは何か。そして今日も尚「ゑんた」と  
 云ふ差別が消えてなくならな  
 いのは何故かといふやうなことに  
 ついてその理由を明らかにし、こゝにいふ  
 差別問題をなくするのにはどう  
 したらいいのかといふことを明ら  
 かにして行きたいと思ひます。

### 三、奴隸制度

古い歴史を尋ねると日本には今



から六、七千年前(ネニマエ)は一人も人間(ヒト)が住んでおなかつたといふこととです。それがこの頃(トキ)即ち六、七千年前(ネニマエ)になつて初めて朝鮮(チヨウセン)の方(ホウ)から一般(イッパン)に原(ゲン)日本人(ニホンジン)と呼ば(ヨ)れてゐる種族(シュウゾク)が移住(イジュウ)してきました。今(イマ)でも樺太(カマフラト)あたりにはその子孫(シソン)が残(コト)つてゐるやうです。この原(ゲン)日本人(ニホンジン)の次(ツギ)に大陸(ダイリク)から移住(イジュウ)してきたのが皆(みな)さんのよく知(し)つてゐるアイヌ人(アイヌジン)でした。アイヌ人(アイヌジン)は原(ゲン)日本人(ニホンジン)を段々(ダンダン)北(キタ)の方(ホウ)へ追(オ)ひつ追(オ)ひつして殆ど全(ぜん)日本(ニホン)に住(す)ふやうになつたのでした。

日本の紀元(キゲン)二千五百九十三年(ニクハヒヤクコウサニサン)といふのは六百六十年程(ヒヤクロクジュウニトシ)あまけがあるのです。これは学者(ガク)の間(マ)でも定説(テイセツ)となつておまう。

その後(ノチ)皆(みな)さんがクマンソ(クマンソ)といふ名前(ナ)で知(し)つてゐるネグリート種族(ネグリートシュウゾク)が移住(イジュウ)して来(き)ました。主に九州(クシュウ)沖繩(オキナワ)地方(チホウ)におたものです。

以上(イシヨリ)申しましたやうに日本(ニホン)の国(クニ)では最初(さいしよ)一人(ひとり)の住人(ぢゆうじん)もなかつたのです。かその後(ノチ)四回(よんかい)に亘(わた)つて他(た)の地方(チホウ)の

たものでした。だからアイヌの遺跡(イヌノイセキ)は日本(ニホン)甲(カ)から出(で)て来(き)ます。このアイヌ人の次(ツギ)は支那(チナ)方面(ホウメン)から移(うつ)つて来(き)たのが今(イマ)の日本人(ニホンジン)と呼ば(ヨ)れる大和(ヤマト)民族(ミンジク)即ちツングース族(ツングースゾク)だつたのです。シベリヤ(シベリヤ)の南部(ナンブ)に今(イマ)でも数(スウ)万人(マンニン)のツングース族(ツングースゾク)がおて昔(ムカシ)の伏(フセ)の生活(セイカツ)をしてゐるやうですが、これは日本(ニホン)人とそつくり同(おな)じの民族(ミンジク)なものです。このツングース族(ツングースゾク)は非常(ヒョウジョウ)に勢(セイ)力(リキ)があつたのでアイヌ人(アイヌジン)や原(ゲン)日本人(ニホンジン)を征(せい)服(ふく)してとも角(カク)大和(ヤマト)民族(ミンジク)の國(クニ)家(カ)を

種族(シュウゾク)が移住(イジュウ)して来(き)たのです。そしてこれ(これ)らの種族(シュウゾク)は段々(ダンダン)と混血(コンケツ)して現在の日本(ニホン)人(ジン)といふもの(もの)を形作(カクゼツ)つたものです。

そう申(ま)しますと何(なに)だか自然(シゼン)に何(なに)の争(あら)ひもなく混血(コンケツ)して日本(ニホン)人(ジン)となつたやうですが決(か)してそうではありませぬ。先(ま)言(い)ひました原(ゲン)日本(ニホン)人(ジン)・アイヌ人(アイヌジン)・ツングース人(ツングースジン)それ(それ)からネグリート人(ネグリートジン)の四(よ)つ(つ)の種族(シュウゾク)の間(ま)には物(モノ)争(あら)ひ争(あら)ひが行(おこ)はれたのです。征(せい)服(ふく)者(者)として勝(か)つたため(ため)には虐殺(ゲツカツ)・焼(や)く



打その他色々な方法が用ひられま  
した。そして結局ツングース即ち大  
和民族が勝つたのです。 **ハルモニ**

尤も茲で注意しなればならぬ  
のは同じ大和民族でもアイヌも  
同じ頃少しづつ移住してきた種族  
もあつて大和民族は救國に亘つて  
移住してきたのです。そしてアイヌ  
と同じ頃移住してきたものはやはり  
アイヌ人と同じ様に征服されたので  
す。  
**この最後の征服者となつたのは**

皆さん 私達が夢にも忘れない  
差別問題は實に茲にあることを  
深く心にためて下さい。この征服さ  
れた人々こそ不自由民即ち奴隷  
として皇孫族のために永い間虐  
げられてきたのです。

即ち皇孫族と言はれる連中は何  
れも貴族としてこの征服された人  
達の上に立ちこれらも不自由民即ち  
奴隷として貢物を出させたのです。  
物部氏とか大伴氏とか中臣氏など  
は何れも天皇を中心とする貴族

**この天皇系統の皇孫族**の  
だからこの皇孫族のために征服さ  
れたのは

原日本  
アイヌ  
皇孫族より前に移住した大和  
民族の一部  
ネグリート人

と、こつといふことにはなるのです。  
奴隷として問題となるのはこの征  
服された人達はどうかとい  
ふことです。

階級でその下には征服された奴隷  
階級が非常に沢山おたのです。従つて  
この頃の貴族は自分の勢力範囲  
にどれだけ奴隷がおるかといふこ  
とを以つて財力の標準としたので  
す。そして天皇は最も多くの奴

隷所有者だったので、**奴隷制度**  
の社会といふのはこの頃のこと  
です。奴隷といふのは皆さんも御承知  
でせう。生命は勿論總て自分の主  
人の自由による物として扱はれる  
のです。この人權のない奴隷を次



山所有するがしなにかで貴族の勢力  
 カを圍つたといふ時代それが奴隷社  
 会です。貴族が死ぬと十人も十五人  
 も一緒に死なねばならなかつたとい  
 ふやうな殉死といふ野蠻な風習  
 のあつたのも奴隷制度の時代だつた  
 からです。

併し人種を全く認めない力の弱  
 いたため殆んどなぶりものにされ  
 ておた奴隷。その奴隷の上に皇族  
 だけか貴族として威張つてゐる奴  
 隷時代が永久に続くわけではあり

ませんでした。平安朝の末頃から  
 段々と奴隷制度は壊れてきてそ  
 の次に封建制度が現はれてきたの  
 です。

## 日 封建制度

奴隷制度の時代に奴隷達は一体  
 何をしておたでせうか。勿論貴族  
 共は少しも労働をしなかつたので  
 食物も衣物も皆奴隷達が作った  
 ものです。此の時はまだ佛教とい  
 ふものが輸入されず従つて肉食と

とが賤しまれなかつたから馬  
 や牛は平気で食物としました。だ  
 から奴隷達の中には狩獵を生業  
 とするものも居りました。前に申  
 しました象とりといふ言葉はこの  
 頃用ひられたのです。即ち象とり  
 は奴隷の中の一つの生業だつたので  
 す。斯くて奴隷達即ち日本で不自  
 由民といふものは農業織物大工  
 陶器などを仕事としておたもの  
 でした。所か業務の性質上織物と  
 か陶器作り大工などは年中一所にと

どまらず各地方に出歩いて仕事し  
 たものです。からいつのまにか不自  
 由民より一歩進んだ半自由民といふや  
 うなものに成長したのでした。そ  
 してその間からは商人のやうなもの  
 も出てきたのでした。又段々と  
 國中人口が増えるやうになつて  
 農業といふものが重んぜられるやう  
 になり單なる不自由民でなく一定  
 の土地を或程度まで自分のものと  
 し耕やすことの出来る半自由民と  
 して耕作することが出来るやうにな



(14)  
められた。労働するものの実力が認められるやうになつたわけなのです。申には源平その他の戦で武士の中へ交つて完全なる自由民となつて行つたものもありました。武士のこゝとを前に申しませんでしたか。の武士といふのは奴隷を征服するときに貴族の家采として切らいた貴族と同じ一族のもので最初から自由民として貴族と奴隷の間の中間におたものでした。皇孫族の発展はこの武士の力による処が多いので

す。ところが奴隷を完全に自分の支配下に置くやうになると貴族共は今まで切らいた武士を軽んずるやうになつたので武士は貴族に反抗を起すやうになつたのです。そして不自由民としての奴隷が段々半自由民となるに従つて武士はこれらの半自由民と一緒に残り貴族に反抗するやうになり手した。これは奴隷制度即ち一面から見れば貴族制度に對する反抗運動だったので。そして最後に藤原氏から平家をと

中心とする貴族制度がつぶれて源頼朝の幕府が作り出したのです。これが封建制度なのです。封建制度になると武士と一緒に切らいた農民や商人も一定の人権を与へられるやうになり今までの馬鹿々々しい殉死などといふやうなことはなくなりました。そして兎に角自由民として解放されたのです。封建制度では奴隷を沢山所有するから勢力があるなどといふことはなく大名領主として多くの土地を持つものが勢力があると

いふ風に変つてきたのです。即ち自由民としての農民は大名の土地におけるから一種の年貢を納めるのだといふ風に変つて来たのです。処が比自さん 私達が今まで問題にしなかつたものと此の運命はどうなつたでせうか。他の不自由民が半自由民となつて変つて行く間にもこの「ふとり」だけは何等変ることなく武士の具足を作るやうな毛皮をとつたり鹿や兎を追つて生活しておたのです。



そのうちにあり憎むべき佛教がけ  
 いてきて肉食をする人を極端に  
 輕蔑することが初まりました。元來  
 佛教といふものは如何なる悪いこと  
 をしても將來は浮べれるとか奴隷に  
 生れたのは前世の約束だと云つた様な  
 貴族の非道な人民圧制をいしものと  
 思はせるやうな性質のものだつたか  
 らその頃無礼發見沢を極めておた  
 貴族にしては、この上なくいふものだ  
 つたに相違なかつたのです。そこで貴  
 族共は早速この佛教を広めることに

一生懸命になりました。そして今手  
 で奴隷だつた半自由民にも因果應  
 報と云つたやうな前世に悪いことし  
 たから今非道い目に逢つてゐる貴  
 族は前世に善いことをしたから今發  
 沢をしてゐると云つたやうな思想  
 を吹き込んだものです。  
 比呂さん、そしてこの佛教は實に  
 肉食を最も悪いことだとして宣傳  
 したのです。比呂さん、これは他でも  
 い奴隷と貴族の斗争を禁ずる掟  
 だいたもりののです。貴族が奴隷を

糾すのは当り前である。だが奴隷が  
 反抗するのはよくない。この争斗と  
 いふことを一切禁じたものが肉食を  
 賤しむと云ふことを獎勵した理由  
 なのです。どんなに苛められでも争  
 つてはいけない。あきらめろといふ  
 のが佛教の思想です。成程これでは  
 肉食には代えられぬ。貴族にとつ  
 て都合のよい宗教ではありませんか。  
 かくて半自由民、貴族の間には滔  
 々として肉食を嫌ふといふ思想が  
 漲つたのです。皆さん、これではと

りの運命がどうなつたかは明らか  
 なるでせう。えと、これは次第に日陰  
 者にされて行つたのです。  
 「えと」といふ言葉は「えと」とい  
 ふ言葉につゞめられました。そして  
 「えと」に對する輕蔑は「えと」と云  
 ふやうになつても変わりません。「えと」  
 は遂にのひあがる社会を失つてしま  
 つたのです。  
 他の奴隷達が商人として大工として  
 亦農民として半自由民、自由民とな  
 つてしまつてからも「えと」は遂にと



り残ざれしてしまひました。  
「ゑんた」の悲惨な運命はこの頃から  
始つたのです。

# 立み分制といふこと

と

「ゑんた」に対する差別が起つたのは  
前にも言つたやうに平安朝の中  
頃からでした。  
併し實際のところやうやく半自  
由民になつた農民達の間にはその  
頃は元々同じ奴隷の身であつた

併しやがて平和の時代豊臣徳川の  
時代になると一片の土地をもよるべ  
とすることの出来な「ゑんた」階級は  
全く途方に暮れてしまつたのです。  
「ゑんた」に対する差別は次第に烈し  
くなつて行きました。戦国時代に死  
骸并附人夫として又具足の生産者  
として働いてゐた「ゑんた」は平和の時  
代には全く無用な奴隷だつたのです。  
そこに何か起るか、明らかなでせう。社  
会から遠くへ辺鄙な山へと次々と  
々に人里離れた山間の地を求めて

のだからそんなに激しい差別を  
「なかつた」ものです。現に戦国時代  
前には「ゑんた」といふことを輕蔑して  
書いた記録など殆どないのです。  
殊に戦国時代になると強い者勝ち  
といふやうな世の中で農民も商人  
も武士と一緒に戦争をした時代だ  
から「ゑんた」などといふことは殆ど  
問題にならず中にはどしどし武士と  
しての技術を会得して「ゑんた」の中  
から武士階級の中へとび込んで行つ  
た者もある位でした。

山猿が逃げ込もやうに逃げ込んだの  
です。  
そのうちに徳川幕府が生れました。  
徳川幕府は封建制度の最も発達し  
た形だと云はれます。土地と年貢を  
社会のはかりとする封建制度で  
す。そこでは身分といふものが決めら  
れました。士農工商とは徳川封建  
幕府が制めたものです。大名と家来  
領主と百姓親方と職人、これらの社  
会の関係は皆土地と年貢が土台と  
なつて形作られたものです。封建経



済は土地経済です。封建社会は身分社会なので。

ところがこの封建社会の表向の身分から更に一等落された「えんた」といふ身分が決めたことを誰か忘れることが出来ませう。士農工商のうち士は全く自由な階級、農工商は半自由な階級でした。ところが「えんた」は全く不自由な奴隷として階級といふことに決められたのです。封建制度といふ社会が身分制の社会だからです。「えんた」は婚姻を禁ぜられる

事実取られておたのです。皆さん皆さんは決して身分制の本質を忘れるてはいけません。身分制は封建社会にたくてはなれぬものです。身分制によつて幕府は社会の秩序を保つておたのです。武士、百姓、町人、えんた、武士はどこまでも幕府の番兵として百姓町人を抑へつけるのです。百姓町人は自分の苦しみをまた下に「えんた」といふ階級もぬるからといふので「えんた」を尊重して僅かに腹の虫を納めておたのです。「えんた」は実に二

つた。「えんた」は土地所有を禁ぜられる。「えんた」の生命は大の生命と変りありません。「えんた」は死なな牛の屠附け罪人の監視といふやうな全く社会面からとり残された仕事をしてワルはなつたばかりです。而も「えんた」は盲目な信仰によって、隣を身分を結晶だと思ひ込ませられておたのです。その上「えんた」は遊馬死牛の屠附けによつて得る羨らかり収入のうちから税金をとられるおたことを「えんた」は知つておるでせうか。

千年の前からとなく下積の奴隷としてそして最後には身分として「えんた」階級として踏み台にされておたのです。徳川幕府はこうして同じ下積のゆらく農民や分役者を仲違ひさせるやうな方策をとつて人民を搾りに搾つておたのです。私達は前差別問題はゆく者同志の間にあると云ひましたが、事実徳川時代から差別は同じゆく者の間にありあつて武士共は唯頭から威張りちらせばよかつたのです。



# 六明治維新

明治維新は四民を平等にしたと云

ひます。併し果してそれは本當でせ

うか。今になつてもゑたへの差別

問題は絶えないではありませんか。

華族はどうしました。御本尊の天皇

はいかゞでせうか。

皆さん 皆さんは天皇の問題を

はつきり考へたことがありますか。

皆さんはこの物語りから既に天皇

が何であるかを知つたことと思ひま

す。だがもう少し立ち入つて私達は

天皇の問題を考へて見ようではあ

りませんか。

先づ天皇は日本人全体の生か

親だといふことと子供の時から聞

かされておます。事実どうだつたて

うか。皆さん私達は歴史といふもの

を只ほんやり読んでおてはなりま

せん。私達は先に日本の国には最初

人間はあなくて、その次四つの種類

の人間がけいつてきて結局今の天

皇系統の皇孫族が勝つて他の者は

皆奴隷にされたといふことを学びま

した。そして貴族と武士と奴隷の社

会即ち奴隷制度の社会が生れたと

いふことを学びました。その後奴隷の

反抗によつて奴隷社会がうぶれて封

建社会即ち士農工商といふ身分

制の社会制度が生れたことも学び

ました。又奴隷の立場からとうとう自

由に存れなかつた「ゑた」といふ身分

がとり残されたことを知りました。

ところが皆さん私達が今まで

全くゑたの存在がなかつた天皇といふ

ものも一つの身分に他ならなかつた

のです。徳川幕府によつて「ゑた」と

いふ身分が社会の下層に取り残さ

ておたやうにこの「天皇」といふ身

分は社会の一番最上に残されてお

たのです。貴族と奴隷の社会がたぶ

れて諸侯が社会の支配者となり

商人や農民が半自由民として発展

した時に天皇と貴族はそつとして

その社会の上位を保證されゑた

は奴隷として人間の最下等の身分

を与へられたのでした。



併し皆さん同じ身分といふ事を皆さんはハッキリ考へなければなりません。

実際に於て日本の歴史で今まで確力を握った人達はどんな種類のものであつたか考へてごらん下さい。藤原氏と云ひ平清盛と云ひ源頼朝と云ひ徳川家康と云ひ皆天皇と本家親宅の地位にあるものだけか確力を握つてゐるのです。即ち日本では昔から今まで最初の征服者であつた皇孫族が政治をとり確

とには変りないので。だから天皇が政治を執るといふことは貴族的な封建的な制度がまだ今日でもなまなまのたふといふことを示してゐるのです。私達は先に封建制度は土地と年貢が中心になつて出来てゐる身分社会だと申しました。實際日本の天皇は金に見積つて二十億円にもならうといふ大地主です。即ち土地を持つ地主が物も言ひせぬやうな確力を握つてゐるのは封建制度からくるのです。天皇が土地と年貢を日本一持つてゐる

力を握つてゐるのです。二千年前に奴隷として今の天皇族に押しつぶされた人達は嘗て変わらず今でも天皇の名前によつて押しつぶされてゐるのです。

明治維新は大政奉還したといふけれども実は下の者が騒いで親宅が危なななつたから本家でとりあさえてやるといふのと少しも変わったもの。親宅が政治を執らうと本家が執らうと同じ皇孫族の貴族が下層の奴隷階級を搾り取るといふこと

て日本一小作料をとり日本一金儲けをしてゐることを少し詳しく述べてみます。先づ東京の宮城を初めとして宮殿宅地が約一千町歩山林御料地だけで百廿万町歩。全国の二十六分の一を独り占めにしてゐるのです。忘れもしない去年から今年人の先作で切端づまつて東北の兄弟がこの御料地でマグサを刈つたため大変な罰金を科せられたのです。満足に暮せたら誰か散りつ葉一つ盗むものですか。



まして御料林でなかつたらどうまで草一本で割せられやしなかつたでせう。而もこの御料林なるものは元はその土地々々の共有林であつたものを明治維新の時一札を立て御料林とされてしすつたものであります。だからこの割合で行くと天皇の大地主が廿六人おたり日本中の山といふ山は足が入れられぬといふことになるのです。

そればかりではありません。大切な田畑はといふと全国の八十三分の一即ち七万三千町歩持つてゐるのです。こゝか

こゝことに天皇といふ身分の威力は

驚くべきものやうな貴族制度封建制度の代表者である天皇をまつとしてきて、その貴族制度封建制度のために悲惨なる生活を強いられてきた「ふた」をなくせと言つたところはどうしてなくなる道理があるでせう。封建制度はそのまゝにして置いて封建制度の産物だけをなくせと言つたところでどうしてなくなりませうか。

らど水だけ小作料があかると思ひますか。

これでは夏は避暑者冬は避暑とどんちん新買入沢でもできます。萬やそのらの「お寺元金」を出したつて蚊の涙ほどにも当るわけではありません。それで納めようにも納められぬ小作料のカタに土地は取りあげられ年齒もゆかぬ娘が僅か十円か二十円で賣られて一生明るみへ出られなくなつてゐるので、天皇はまるで私達の娘を女に賣らせておるやうなものです。

「ふた」といふ身分差別がなくなる時は、天皇といふ身分制度もなくならなければならぬ時ではないでせうか。

ちよんまげはおかしいといふ人がどうして天皇がおるのをあかしいと言はないでせう。

私達はこゝで明治維新の中味をよく調べてみる必要があると思ひます。奴隸制度が不都合だと云ふので貴族社会は武士と不自由民につぶされて封建社会が生れまゝた。その封建



社会もいつか下層民の不平のもとと  
 なつて明治維新によつてつぶされたの  
 です。処が貴族社会や封建社会の支  
 へ柱であつた天皇だけはそつくりして  
 おるのです。これが問題なのです。  
 明治維新は次員本家社会が封建社  
 会にとつて代つた革命だと云ひま  
 す。身分制度がつかれて金力制度が  
 勢力を増し天下をとつたわけです。  
 歴史では万民平等の資本主義革  
 命だと云ひます。処がこの資本主義  
 革命と言ふのは古来中どの国で

もあつたのです。例へばフランス等  
 も天皇や貴族はやめさせられ今まで  
 の身分制などいふものはすつかり  
 なくして共和国になりました。  
 こうしてフランスなどは次員本家  
 が強かつたから封建制度を完全に  
 つぶせたのです。ところが日本ではこ  
 の次員本家の勢力が大名家や諸侯ほど  
 強かつたので明治維新が起きても完  
 全に封建制度がつかせないうで天皇と  
 か大名諸侯をもちあげて封建制度  
 を半分位ぶちこわして中途でやめて

しまつたのです。そして封建制度のた  
 めに一番苦しんでおた農民を解放  
 せず小作制度年貢制度で縛りつ  
 けてしまつたのです。又一方では次員本  
 主義が發達するに従ひ労働者を  
 搾ることになつたのです。  
 だから明治維新は封建制度がなくな  
 つたといふけれども実は少しもなく  
 ならぬで天皇とか華族とか貴  
 族院、枢密院とか地主小作制度と  
 して今でも残つておるのです。  
 そして「あつた」といふやうな問題も

こゝから起つてくるのです。日本で  
 は資本主義が勢力を持ち政治を  
 とつておると一緒に封建時代の勢力  
 がその伏強つて次員本主義とどつ  
 ちがらうの勢力を持つておるので  
 す。明治維新は封建制度をつぶして  
 次員本家の政權を握つた革命とし  
 た。併しその封建制度はつぶれ切らな  
 いで天皇とか華族とか地主とかとし  
 て残り今の日本ではどうした封  
 建的な地主貴族、天皇と次員本  
 家が共同して政權を握り人民の上



に立って居るのです。だから明治維新  
 前は全く土地の所有者にだけ執力力の  
 あつたものが今では金即ち資本本の  
 力を持つて居るものがオ一の執力力を  
 持ちその次に土地を持つものが執力  
 を握つて居ります。明治維新前は地  
 主があらゆる権力を握つてゐたのに  
 今では資本本家と地主が権力を握つ  
 てゐるのです。資本主義的封建的政  
 治権力といふのはこのこととです。その  
 一番の頭が天皇なるのです。一口に三月  
 三夜といふ日本の資本本家勢力は

二十億の大地主である天白王と一緒に  
 なるつて国民の上には立ち他の多くの  
 資本本家や地主の先に立つて労働者  
 や農民をいろいろと搾つて居るので  
 す。よく問題になる草族なども大  
 部分は大地主なるのです。

(前篇終り)

V. 2



特501  
847

真理の友叢書第二輯

# 身分制の話 後篇

真理の友社發行

(定価二銭)

## 身分制の話 後篇

目次

- 七、明治維新直後の勞働者農民の狀態
- 八、今の社会では誰が一番苦しんでゐるか
- 九、水平社の兄妹
- 十、水平社の兄妹は過去に於て如何に戦つてきたか
- 十一、融和会は……
- 十二、水平社の最後の解放は……

## 七、明治維新直後の勞働者農民の狀態

西洋では次頁本主キ革命といつて封建時代の地主や貴族や天皇といふやうな身分制度で権勢を張つてゐたものを次頁本家達が打倒したものです。恰度それに相当する日本の明治維新は併し前も云つた通り日本の次頁本家が弱かつたので封建制度を完全に倒すことのできたのでした。そのマゲミをやめたけれど地主が高い小作料



をとりつることや草履といふ身分が沢山の土地で保証されたことや天皇が日本一の地主にたつたことや封建制度は殆んどたたくならぬのです。下層の労働者は依然として雇われぬので。資本家共は勿論さういふ雇われぬものを決して甘やかすやうな取扱ひはしません。農村で依然として封建制度が残つてゐるのを幸に徳川時代以上の残酷な取扱ひをしたもので。即ち先にも述べたやうに農村で共有林を天皇に取上げられたりとさくさまぎりに

十二才位しか与へられなかつたのです。福島縣の製糸工場に於ては敬告すといふか明治十二年まで僅か八九才だつたやうです。賃銀問題で更に悲愴な事實を示すならば当時の日傭人夫の日給賃銀は十才六才から二十才位だつたのです。水平社の兄弟達の受けた賃銀は実にその半分即ち明治三十五年頃まで七才乃至八才だつたことです。水平社の兄弟の賃銀については極く僅かな資料しかないがそれにしてもこの事實を諸

土地を追はれた農民はほとんど労働者として都会や工場へ連れられたるもので。そしてそれらの労働者は今までの農村に於るよりもつとひとく、ゆかせられたのでした。明治二十五年の日本中の労働者は約三十才あつたと云ひますがその殆んどが百姓出の不慣れた労働者でとても安い賃銀でこまに使はれたので。明治十五年前の足利紡物工場の男工の如き十七才から十九才で女工さんなど明治三十六年頃即ち日清戦争頃まで

君は何と見られまうか。これが即ち封建制度といふもののお陰なのです。ではこのやうな賃銀を貰つておた労働者はどの位ゆらいたのでせうか。職事情といふ本を見ると明治三十九年の様子に次のやうに書いてあります。『種工場に規定の労働時間を十時間又は十時間制限してゐるが大抵は九時頃まで夜業しない処は全く一月中五六回は十二時まで夜業するの常である。若し労働多忙な時は一月十日以

ては十時頃まで夜業しない処は全く一月中五六回は十二時まで夜業するの常である。若し労働多忙な時は一月十日以



以上二十時まで夜業す。かくて労働時間は  
実に十五時間乃至二十時間に及ぶのであ  
る。

そして詳しい統計を挙げておるが私  
達はその統計を見て更にゆるみのない  
ゆがせ方に驚くだけです。

女工の年令など見ると私達は封建  
制度の悪といふものをまざり見せら  
れるのです。

日本産業史といふ本から抜き書き  
して見ませう。

明治三十年頃にあつて職工特に女工の

べ取工の如きはその七八分まで十才未  
満で軸並べ枠の間にはさまつて左右  
をキヨロク眺めるから軸木を並べるのだ。  
この漸く歩か歩かぬ位の子供達は一  
日軸並べをしてど水位賃銀をとるか  
といふと一五厘か二五厘だ。それでも  
こゝにおればそれだけ儲かると思つて  
皆工場へでるのである。

何と皆さんよろしくやつと位の子供  
達が一五厘か二五厘で母にくつゝいて一  
日仕事をしたのです。こゝにいふ虐待  
労働を土台に今の天皇や三井三菱の

年令は十五才以上二十才以下の者が最も  
多く年令の長せる者は祖紡村に屋  
敷。幼い者が精紡村に屋敷するのであるが  
長せるも十六七才大抵十二才か十四五  
才甚だしきは七八才の兒女を精紡に見  
出した。

又マツチ工場では他の工場に比べて細  
民の兒女多く而して取工に幼年者を  
見るはマツチ工場で特に甚だしい。取工  
の過半数は十才から十四五才の兒童で  
中には八才なるもあり甚だしきは六  
才の者を見ることも多し特に軸並

財産が出来上つておるのです。これが明  
治維新の有難い御時世なんです。

日本農政学会といふ本を見るとき  
これらの労働者の虐待振がどんなに  
ひどかつたかの一例として埼玉縣春田  
村で起つたコルテン糸物工場労働待  
事件を挙げておます。

一明治三十五年一月九日頃逃亡せる十六才  
の工女を裸体にして縛り絞竹で殴  
打す。  
二明治三十五年一月二十五日前記の工女が  
再度逃亡せるを裸体にして殴打せる上



糸の上包みの青色紙や葉縄切をメメに  
おしこみ綾竹でかきまわす。

三同年三月六日エ女二人を裸体にして  
殴打し寒中佇立せしむ。

四、救名のエ女を或は減食し或は裸  
体にし或は寒中頭部より水を浴せ  
たりす。

この他日本のエ女を最も苦しめておる  
寄宿制度を挙げてみませう。

彼等エ女の寄宿所正なる寢所に至  
りては……甚だしきは畳を敷かずして  
板間に薄縁を敷き、衣類寢具を纏

ろと珍らしくないので、そんな処へ娘  
を出してをく父母の立場になつて  
みたらどんな気持ちになるでせう。

御一新といふ名前の下にどんなに私  
達幼く者達か虐げられてきたかは以  
上で大體取扱つてきました。この虐待

は何れも奴隷時代封建時代の習慣や  
社会制度が完全になつて了はな  
いからこそ行はれるのです。そしてそ

の中でも特に悲惨なる有様だつたの  
は水平社の兄弟でした。恐るべく又憎  
むべきはこの封建制度とそして封建

むべき押入もなく……又工場内の一部を  
寢所に充つるあり又軒台等を乱雑に  
納めたる物置の一部を寢所に爲せる  
もあり殊に寢具に至りては甚だ不潔  
なりとす……

併しこれらのは今曰全く影響をいそ  
めておるでせうか、長野、岐阜、群馬の製  
糸工場に付いたことのある人ならこの  
様な虐待や寄宿制度が平気で今で  
も行はれておることをよく知つておる  
でせう。セリブレイン・デニール試験に不成  
績のため糸碎で頭を殴られた事件

皇制度にてこの明治維新によつて生  
れた強い非道極まる政治権力者の  
です。以上述べた色々の労働者の悲  
惨事はさういふ政治のために起つて  
来たものです。

### ハ、今の社会では誰が 一番苦しんでゐるか

奴隷社会では奴隷が一番苦しんで  
おました。封建社会では農民が一番苦



じんでおました。明治の御一新があつてか  
 らの今の日本では誰が一番苦しんでお  
 るでせうか。それは云ふまでもなく労働  
 者といふ農民です。殊に日本では農民  
 は封建時代そのまゝの搾取をされて  
 いるのです。地主小作の關係は封建  
 時代の制度だからです。  
 毎日新聞に報導される事件を見  
 て私達はそこに何を見出すでせう  
 か。失業者は日本に三百万人もおると  
 云ひます。そして食へない層に

増しに多くなり、小学校教員の不  
 研給料は数百円もあると云はれ  
 ます。小作料どころか食ふ米にも  
 足りないやうな水呑百姓がどんな  
 に多くなつたでせうか。それでも地主  
 共は一粒の米をも刀負けやうとした  
 いのです。  
 都合では労働者は働くにも仕事か  
 ない。代金は極く安い賃銀でこき使  
 はれます。まじくすると賃銀は  
 フミ付されるのです。農村では執  
 達と役場にあどかさし通したる

一家四人心中とか止むに止まるぬ盗み  
 をしたとか云ふ様な記事は跡を断  
 ちません。而も東京市電では二千七百  
 切とか八幡製鉄所では一万人整理だ  
 とか云ふやうに明日にも生活の道を  
 奪はれるやうとしてゐる労働者は  
 救知れぬ。一方では天皇や三井三  
 菱は戦争やインフレ政策によつて  
 一挙に何千万円といふやうな利益を  
 独り占めして労働者や農民の零々  
 細な賃金をかすめとるのです。  
 農村では農村で税金滞納など曰

息詰りやうな日が続くのです。鶏  
 の食ふやうな食物で飢をしのん  
 でおるのです。  
 併し皆さん私達はこうした事  
 実をいつまでも黙つて見ておたでせ  
 うか。いえ、奴隷制度封建制  
 度の時代に働く者達は天々貴族  
 や地主に反抗してその社会をぶつ  
 けたではありませんか。苦しむ者は  
 自らその苦しみをなくしようと努力  
 するものです。  
 次頁本家地主天皇の社会に大奮の



やうな生活をさせられておる現在の労働者や農民もやがて解放される道を発見したのである。彼等は段々と労働組合農民組合へ團結して行つたのです。労働組合農民組合は實際労働者と農民が次日本家地主の圧迫をほねのける爲に発見した唯一の方法でした。

### 九、水平社の兄弟

「あゝ」といふものが徳川時代に実に残酷な扱ひを受けたことは前に述べました。その「あゝ」も明治維新には解

は自分自身で耕地をきりひらいて農業を営む者も出るやうになりました。

明治二十年頃になり鉄道が各地に敷かれ工場が全国に設けられるやうになると事情はずつと違つて参りました。製糸工場紡績工場鉱山などへはどしどし水平社の兄弟が吸収されて行つたのです。そればかりではなく工場が沢山出ると農村の青年がどんと都会へ出るために農村の土地耕作者が不足して今までは水平社の兄弟

放されることになりました。併し「あゝ」が眞に解放されることは前にも言つたやうに日本の政治や社会組織が半分は封建的だからであります。ではその後の「あゝ」の生活はどうなつたてせうか。

明治維新後も可成り長い間水平社の兄妹は今迄の辺鄙な山村生活から抜け切りなさいました。葉巻工皮細工その他あまり重要でない産業で些細な生活を持ちこたへて来たのです。平野で早く開けた地方で

姉に耕作させなかつた土地を水平社の兄弟にどしどし小作させるやうになつてきました。だからこの頃からは水平社の大部分は小作人若しくは労働者として生活するやうになつたのです。だが併し何と言つても水平社の兄弟は昔から経済上の余力が全くなかつた爲に實に貧窮した生活をして来たのです。最下等の小作人最下等の労働者は多くは水平社の兄弟であるし奴隷時代そのままの人身賣買即ち娼妓制度の犠牲となつてお



オ、多くの女郎の大部分が水平社から出ておること見ても水平社の兄弟が今に至るも尚悲惨極まる生活に押し込められておることがよくわかります。而も水平社の兄弟は千年この方皮らな封建的身分の差別侮辱といふ重荷を背負はされておるのです。生活の苦しさの上にこのいね水のある侮辱を受けておる私達はほとんど浮いあがるひまはなかつたのです。

そしてソの上には天皇の有難さを一番多く宣傳されておるのは水平社

達こそいふ面の皮ではありませんか。皆さん私達はもう如何に水平社といふものが社会の下層に目かくしされ馬や犬のやうにひたむきに労働ばかりさせられておるかを覚りました。では今こそ私達をこのやうな暗黒から解放し自由の天地へ導くものを私達は求むべきではないでせうか。それにはどうすれば達せらるべきものでせう。

の兄弟です。私達がこんなに解放されるたのは明治天皇の御蔭だといふので、ところか比白さんその天皇こそがこの「恩た」といふもの前身を作つた御本尊なのです。奴隷制度封建制度の支へ柱である天皇は同時に「恩た」といふ最下層民を最もひどく搾つた御主人たるのです。恩たは天皇があるからこそその悲惨な運命から今でも逃れることが出来ずにおるのです。それを一番有難いものとして教育されめかくしされておる私

### 水平社の兄弟は過去に於てこんなになつてきました

私達は目かくしされておる間は實際何もわからぬものです。徳川幕府がつぶれる時に長州の人達は最先にこの徳川幕府にぶつかつて行きました。徳川もこの長州征伐には金勢力をいれ、江戸から北の方の軍勢は全部揃へたのです。そして今まで最も侮辱し軽蔑しておた水平社即ち恩



たしまでもその軍勢に加へられる始末  
 だつたのです。事実関東、東北の「**ぶ**  
**た**部落は徳川の長州征伐に実に多  
 数の青年がかり出されて弾よけの代  
 りにさせられたのです。徳川が封建制  
 度を持ちこたへるのに如何に困難  
 だつたかといふことがよくわかるでは  
 ありませんか。それと同時にいくら虐  
 げられてもその頃の「**ぶ**」の様目  
 かくしされておるうちは、その仇であ  
 る支配者に御奉公させられるものだ  
 といふことがわかるではありませんか。

おるのです。「**ぶ**」運動の中で「**ぶ**」は  
 今まで虐げられた不平不満をバク  
 だのです。併し「**ぶ**」はあまり勇敢で  
 あつたために明治維新が終ると大名  
 や地主に恐れられて去にも恐ろしい「**ぶ**  
**た**」狩りといふことが各地で行はれま  
 した。それは大名や武士が何も知らぬ  
 町人を煽動して「**ぶ**」が謀反すると  
 いふやうな逆宣傳を飛ばし「**ぶ**」の  
 部落に押しよせて焼き打ち殺人の  
 差汰の限りをつくすのでした。そう  
 して「**ぶ**」は實に極悪道の「**ぶ**」

併し明治維新当時になると「**ぶ**」も  
 昔のままの「**ぶ**」ではなかつたやうで  
 す。何故なれば明治維新は前にも言つ  
 たやうに次男本家即ちブルジョア革命  
 でしたから幕府の矢面に立つたのはこ  
 の資本家と通じておた武士でした  
 が併しこれと同時に百姓達も随分  
 多くの一揆を起して徳川幕府をつぶ  
 すことを手傳つたのです。そしてその百  
 姓一揆の数は維新前後だけで二三百あ  
 つたと云はれます。その時この百姓一  
 揆の中で「**ぶ**」は可成り勇敢に働いて

狩りをやらし明治維新の一揆の仕返し  
 を大名から受けたのです。この「**ぶ**」  
 狩りは水平社の兄弟をいためつける  
 と共に一般労働者農民を武力の前  
 に首も上からないやうにおどかすと  
 いふ大名や地主にとつて有利な結果  
 だえもたらしたのでした。「**ぶ**」狩りの  
 悲惨なることについては又語る機会も  
 あると思ひます。  
 兎に角この「**ぶ**」狩りのあつた後「**ぶ**」  
 たは差別問題の本質をやや冒険つてま  
 だのです。そして戦へば差別問題はな



くなる。差別問題は力の問題だといふ  
 ことを経験から覚るやうになつたので  
 了。明治から大正にかけて日本は産業  
 の発展時代で前にも云つたやうに小作  
 人も労働者も今までのやうに全く特  
 別な部落で一團をなしておないて  
 ゐた。「あつた」でないものも一緒の  
 工場一緒の土地で働くやうになつて来  
 たのでした。  
 だから勢ひ初めのうちは差別事件  
 も非常に多かつたのです。而も差別  
 問題も或程度まで力の問題だとい

それにしては水平社の兄弟がいつまで  
 も眼リこけておなないいつまでもア  
 ー面しておなないといふことの最も著  
 しい例の一つだと思ひます。  
 その中に段々一般の経済的力かた  
 ててきたので水平社の兄弟の生活状態  
 もよくなつてくる。部分的には差  
 別問題の影の消える処までてきた  
 のです。  
 この差別問題に最も大きなものと  
 めを刺したものは例の有名人米騒  
 動です。

ふことを明治維新により学んだ水平  
 社の兄弟は黙つてひつとんでおなか  
 ったのです。差別問題の起る度毎  
 に血を洗すやうな斗争が此処彼処に  
 起りました。  
 明治三十年八月十六日大阪天満紡績の  
 女工百余名は石川縣人は加賀乞食だ  
 から度外に使役し給金を安くしても  
 いふといふ会社の方針を聞いてス  
 トライキを起し会社と斗つて居りま  
 す。この時は岡山縣の女工と石川縣の  
 女工だけが立ち上つただけでしたか

米騒動は吾界大戦が始つて物価が  
 騰貴し特に米価は天井知らずの高  
 くなつて行つたのに労働者の賃銀は  
 少しも上らなないので生活が極度に  
 不安になつた労働者民衆の反抗  
 暴動だつたのです。この大正七年八  
 月一九月の米騒動は日本中二十六ヶ所  
 に軍隊が出動し三百ヶ所に暴動が起  
 り二千人近くの人達が暴動に加つた  
 といふ大きな動乱で日本の労働者  
 や農民の反抗運動組合運動はこの  
 米騒動からだと云はれる位の大きな



政府への反抗運動だったのです。  
 ところが比呂さん、この米騒動の中  
 心部隊は誰だと思ひますか。これこそ  
 私達の夢にも忘れる水ない水平社の  
 兄弟達だったのです。その頃水平社  
 の兄弟が大部分最下層の労働民  
 衆として生活しておたことは前にも  
 述べましたがその鬱憤が米騒動  
 の時に表れたのです。二十万人と云  
 へば日本の人口の三分の一ですがそれが  
 殆ど内乱騒ぎをやつたのです。而もそ  
 の中で最も勇敢に斗つたのは水平

社の兄弟たちだったのです。米騒動  
 の時何万といふ人が犠牲になつてしま  
 したが米騒動のため東京で死刑にさ  
 れた八人の人は私達の兄弟水平社の  
 人達だったことを忘れることは出来  
 ないと思ひます。この米騒動は實際  
 労働者としての特殊部落民の斗争  
 カを一般化し差別問題はこれから  
 激減してゐるのです。  
 併し米騒動後差別問題は止んだ  
 でせうか。皆さん、私達は差別問題  
 身分制といふものが封建制度から来

るものだといふこと先に知つておま  
 す。そして日本ではこの封建制が地主  
 小作関係、天皇華族などとして残つて  
 ゐるのだといふことを知りました。  
 従つてこの封建制が完全につぶれない  
 限り「ゑんた」への差別はなくなるいな  
 いと云ひました。ところがこの米騒  
 動以後も日本には封建制は依然として  
 残つてゐるし、而もそれは資本家の  
 勢力と結びついて益々労働者農民  
 を搾取してゐるではありませんか。従  
 つて差別問題はとゞくなくならませ

ん。  
 茲に於てか漸く大衆團體の力を知つ  
 た特殊部落民は吾に云ふ水平社を  
 創立し水平運動を開始するやうに  
 なるたのでした。今でこそ「ゑんた」に對し  
 て水平社と云ふ一般称を用ひておます  
 が其の頃までは「特殊部落民」とか  
 「新平民」とかいふやうな名で呼ばれて  
 ゐたのでした。この水平運動は大正十  
 一年に始められたのでした。その後約  
 十年に亘つて差別撤廃運動が叫ば  
 れました。毎年四千件以上の差別問



題が戦はれたのです。四千件と言葉で云へばわけもないことですが、これによつて直接残酷な身分制のために悩む人達が四千八百人以上あることを物語つておるのです。問題にせねば何でもなく納めるかも知れませんが、問題にすればいつでもこれだけの差別事件があることを示しておるのである。併し皆さん、この様に差別事件は何程戦はれても水平社の解放は不可能だったので、特殊部落民の團結

だけでは解放運動は不可能なのでした。

### 十二 融和会は水平社の兄弟を骨抜きにする

差別問題の徹癢は要するに力の問題だといふことを知つた水平社の兄弟達が團結して水平運動を起し水平社の解放の爲に闘つて来たことを話しました。而も差別問題は依然として除かれておるいといふことも話しました。

した。これは水平運動に的外なところがあつたからです。誰を一番の敵にしなければならぬか、誰誰を味方にするければならぬのかといふことが、あつたりしなかつたからです。ところが水平社の兄弟達が盲滅法にでも解放運動を闘つてくるうちにいつか段々と差別問題の正体は、あつたりとしてきて、それをなくすにはどうしても日本の全労働者農民と團結して天皇、資本家地主と

たのでした。今まで水平社の兄弟達が何もわからずに、身近の労働者や農民達が差別したからと云つては、お互味方同志でケンカをしてゐる間は、資本家地主、天皇達は安心でいた。だが水平社の兄弟達が敵は本能寺にありと、資本家地主、天皇こそが差別問題の眞の張本人だと知り初めると、これは大変今のうち何とかして水平社の兄弟



姉達を眠り込ませてをかないとほん  
とに差別問題がなくなる時身分制  
がなくなる時が来るかも知れないとい  
ふので 水平社の兄弟達を胃袋手に  
する為には資本家地主天皇共によつ  
て作られたのかこの融和事業協会を  
のです。つまり是は私達を苦しめて  
ある身分制その身分制のお蔭で  
教員沢を暮らして居られる貴族  
や資本家の手先が私達だつて差  
別問題の徹底を望んでおますと  
お体裁を作つて私達を釣り私達

の目から差別問題の正体を押し隠  
す一才差別問題は労働者や農民の  
考が悪いから起るのだと云つて水平社  
の兄弟達が労働者農民と団結す  
ることを妨げて解放運動を目途目  
茶にしてしまはうといふのです。

だから私達はこんなものに騙ま  
れることなくこの差別問題の正体  
をはつきりとつかみこの為には誰と  
闘ふべきか 誰と団結すべきかをわっ  
きりと知り私達の解放のため最も効  
めある様に闘はなければなりません。

### 十三、水平社の最後の解放

は何によって得られるか

私達は何度も水平社の解放は封  
建制を叩きつぶさなければ出来まいとい  
ふことを問題にしてきました。そして又  
この封建制と結びついて今の日本の政治  
権力を握つてゐる資本家制度をつ  
ぶしてしまはなければならぬのです。  
日本の資本家制と封建制はどつちが  
つぶしても共仆水になる運命を持つて  
ゐるものだから両方とも離れず一緒に

労働者農民を圧迫してゐるのです。  
天皇が先頭に立つて資本家地主の  
権力が私達を叩いてゐるのです。私達の  
生活の苦しいのはこの小権力が押

しつぶされてゐるからです。私達が水平運  
動は茲へきがついておませんでした。だから  
唯口先だけで差別問題を論じ本當の急  
所を目指しての解放運動を進めな  
つたのです。だから反つて一般労働者  
民衆と仲違ひさせるやうなことをまで  
も出来てしまつたのです。これでは仲違  
つてゐるといふことを真面目に問題に



してきたのは水平運動が五年目即ち昭和二三年度頃からでした。恰度この頃日本の労働者農民運動はどしどし展開して来て労働者は団結して資本家に当り小作人は結束して地主に当るといふやうに昭和二年頃は非常な勢力を保持つやうになりました。そして実際水平社の兄弟もこの頃次第本家や地主にぶつかつておたのです。そして初めて労働者と農民は結束して行かぬはならない。そこでは差別なんか問題にならない。といふ働く者の間の経験を

考へさせられるやうになつたのです。こゝに於て水平運動差別糾弾運動は滔々として労働者農民の組合運動へ変つて行つたのでした。皆さん 私達は今次の様な事実から右のことを成程と云なづかせられるのです。即ち現在制衣系女工さんとして或は紡績女工さんとして遠く出稼きをしてゐる婦人労働者の二割乃至三割は水平社の姉妹であるのです。色々な事情によつてこゝらの労働

者姉妹が組合に参加してゐる割合は極めて少ないのですけれども併し水平社の解放運動は労働運動からといふことは、断言出来るのです。又一方水平社の大部分は小作人貧農であることとです。こゝからして農村の水平社の兄弟は皆農民組合へ結束して地主資本家の確力と斗つて行かなければならないのです。事実××県△△県の如きは全口農民組合員の大部分が水平社の兄弟によつて占められてゐるし

他府県でも水平社の兄弟は組合運動で積極的な役割を果たし勇敢な働きを見せてゐるのです。日本では今労働者の団結のために日本労働組合全口協議会があります。農民の団結の岸に全口農民組合があつて夫々資本家や地主と斗つて居ります。これこそが働く者の生活を保護するたつた一つの道ではないでせうか。水平社自身も自分の生活を守り又眞に封建的身分的差別なくするためには労働組合農民組合



に結合して行く行くは天皇とその一族の資本家地主の政府を仆すまで戦つて行かねばならないと思ふのです。此をやらないうで徒らに身分の差別をぐずぐず言つても初らないのです。皆さん、私達は二千年この方差別を押し来た奴隷の狀態から解放されるために進んで労働組合農民組合へはいつて斗はうではありませんか。それは決して他人ごとではない自分の道なのです。この小さいパンフレットではまだ言

ふべきことの十分の一も言へません。併し私達は今の世の中がどうなつてゐるか、此から先の中はどうか、のかといふことについては又別な研究会に農民組合なり労働組合なりにはいつて学ぶとしてさし当り封建的な身分制の問題をどうす小はなくなるものかといふことをよく考へ意気地なく頭をたれて落ち込んでおるより勇ましく勇ましく自分達を圧迫し侮蔑してゐる社会の制度天皇政治資本家や地主の專制と斗つて行かう

ではありませんか。それは別に難しいことではなく毎日生活に苦しむ者お互ひが団結すればできることなのです。皆さん 私達の行くべき道は明らかになりました。今はもう退くことな

く唯進めばいいのです。すべての労働者は労働組合ですべての農民は農民組合で

進んで初めて私達の眞の解放の道がはつきりとしてくるのです。そこには差別もなく身分もなく

なつてくるのです。特殊部落民の最後の解放は即ち天白土資本家地主の権力を叩きつぶし身を碎き骨を粉にして切れて

ある正義の人達労働者農民の自由の政治が敷かれる時でなければなりません。

全口の兄弟！今は眞面目に勇敢に私達の進むべき道を進もう

ではありませんか。

(後篇終り)



